
バカ対アホ

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バカ対アホ

【Nコード】
N0636G

【作者名】
三代渡吉

【あらすじ】
バカとアホが対決するところなる。

「なんじゃこらあ！」

「やるんかテメエ！」

バカとアホが喧嘩を始めた。周りの人は迷惑そうだ。

「お前、マジで殺すぞ、オイ」

「んだとワレエ！ テメエこそその面打ち抜くぞ、おいしい！」

二人とも気が立ちまくっていた。

こんな一触即発な喧嘩は繁華街では珍しくないことだ。

だが、彼等はそんな連中とはまるで違うところがあった。

彼等は、一歩先を見て喧嘩しているのである。

「死ねえ」

「お前が死ねえ」

睨みあっている最中、バカはふいに考え事が浮かんだ。

「（そういや、明日はスーパ―でバナラアイスが安いんだよなあ。

また寝坊しないようにしなきゃ）」

うんうんと頷くバカ。

一方で、アホも考えていた。

「（絶対明後日のバイト忘れないようにしなきゃ。この間は忘れて

エライめにあつたからな。ところで、次のバイトはいつだっけ）」

アホが悩む中、バカはまた一つ思案事が増えていた。

「（うーん。なんだったかな。ど忘れしちゃった。釣りボケ日誌の

主演の人の名前、思いだせん。ソーさんだったかな、いや、それは

嫁さんの名前や、えーっと）」

アホは、ただでさえ悩んでいるのにさらに悩んでいた。

「（ダンゴムシの丸々機能って、どう考えてもいらんよなあ。毒で

ないし、硬くもないし、鳥に食われたら飴玉みたいに食われちゃう

んと違うかなあ）」

バカは思った。

「（そういや、なんで俺ここにいるんだ？）」

アホも思った。

「（俺何してたんだっけ？）」

そうこう考えているうちに、二人は別々に歩き始めた。

バカは、考え事をしながら、今日の夕飯を想像していた。

今日の夕飯は、豪華に金を使った焼肉だ。

安アパートで一人寂しくバーベキュー。寂しいけどそこは忘れて食べることにしている。バカだから。

ウキウキしながらバカが歩いていて、ふと気がついた。

そうだ、今所持金は千円しかないのだった。

どうしよう、これじゃ全ての材料を揃えられない。バカなのに悩むバカ。

ああ、そうだ。パチンコに賭けよう。

しばらく仕事のないバカに出来る金稼ぎといったら、それしかない。

バカは、パチンコ屋の前に並んだ。

すると同時に列へ入り込んできた奴がいた。アホだ。

「おい、俺が先に並んだんじゃ」

「はあ？ 先に足を滑りこませたのは俺じゃ」

「何いうてる、誰だか知らんが、ウソつくと容赦せんぞ」

「お前、俺を誰と心得てそんな口利いてんねん。首へし折るぞ？」

二人とも顔は覚えていなかったたので、初対面のようなやりとりだ。

「なんじゃこらあ！」

「やるんかテメエ！」

バカとアホが喧嘩を始めた。周りの人は迷惑そうだ。

「お前、マジで殺すぞ、オイ」

「んだとワレエ！ テメエこそその面打ち抜くぞ、おいしい！」

二人とも気が立ちまくっていた。

こんな一触即発な喧嘩は繁華街では珍しくないことだ。

だが、彼等はそんな連中とはまるで違うところがあった。

彼等は、一歩先を見て喧嘩しているのである。

「死ねえ」

「お前が死ねえ」

睨みあっている最中、バカはふいに考え事が浮かんだ。

「（そーいや、明日はスーパ―でバナナアイスが安いんだよなあ。

また寝坊しないようにしなきゃ）」

うんうんと頷くバカ。

一方で、アホも考えていた。

「（絶対明後日のバイト忘れないようにしなきゃ。この間は忘れてエライめにあつたからな。ところで、次のバイトはいつだっけ）」

アホが悩む中、バカはまた一つ思案事が増えていた。

「（うーん。なんだったかな。ど忘れしちゃった。釣りボケ日誌の主演の人の名前、思いだせん。ソーさんだったかな、いや、それは嫁さんの名前や、えーっと）」

アホは、ただでさえ悩んでいるのにさらに悩んでいた。

「（ダンゴムシの丸々機能って、どう考えてもいらんよなあ。毒でないし、硬くもないし、鳥に食われたら飴玉みたいに食われちゃうと違うかなあ）」

バカは思った。

「（そーいや、なんで俺ここにいるんだ?）」

アホも思った。

「（俺何してたんだっけ?）」

そうこう考えているうちに、二人は別々に歩き始めた。

アホは、考え事をしながら、一週間前のパンの耳の味を思い出していた。

パン屋の店主からもらったパンの耳。タダでもらったカリカリの耳。

あまりにも貧しくて空しい食事だが、そこは忘れて食べることに

している。アホだから。

ウキウキしながらアホが歩いていて、ふと気がついた。

懐に千円ある！ 千円ありやパチンコいけるじゃないか！

どうしよう、せっかくの千円だし、スつたらやないよなあ。アホなのに悩むアホ。

仕方ない。パチンコに賭けよう。

実は失敗続きで後が無いバイトの賃金より、ギャンブルで稼いだほうが早い。

アホは、パチンコ屋の前に並んだ。

すると同時に列へ入り込んできた奴がいた。バカだ。

「おい、俺が先に並んだんじゃ」

「はあ？ 先に足を滑りこませたのは俺じゃ」

「何いうてる、誰だか知らんが、ウソつくと容赦せんぞ」

「お前、俺を誰と心得てそんな口利いてんねん。首へし折るぞ？」

二人とも顔は覚えていなかったので、初対面のようなやりとりだ。

「なんじゃこらあ！」

「やるんかテメエ！」

バカとアホが喧嘩を始めた。周りの人は迷惑そうだ。

(後書き)

バカが考えなしに物を書くところなる。リハビリにもならなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0636g/>

バカ対アホ

2010年10月8日15時05分発行